

【国】まち・ひと・しごと創生総合戦略

(平成26年12月27日策定)

◆基本的な考え方

1 人口減少と地域経済縮小の克服

- ①東京一極集中を是正
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現
- ③地域の特性に即して地域課題を解決

2 まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- ①しごとの創生(産業、雇用)
- ②ひとの創生(人材育成、移住・定住、少子化対策)
- ③まちの創生(安心して暮らせるまちづくり、地域活性化)

◆基本方針

- 取組体制：国と地方が「5か年戦略」を策定し実行
 - ・産官学労、住民代表からなる総合戦略推進組織を整備
 - ・PDCAサイクルの確立

○政策5原則

- ①自立性 ②将来性 ③地域性 ④直接性 ⑤結果重視

◆今後の施策の方向

○4つの基本目標

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

◆国家戦略特区・社会保障制度・税制・地方交付税等の検討

- 効果的・効率的な社会システムを構築するため、あらゆる制度について検討

【府】地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)

(平成27年度中に策定予定)

◆基本的な考え方

1 持続的な発展

- ①東西二極の一極としての人口・社会経済構造の構築
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現

2 持続減少・超高齢社会において将来への備えを着実に推進

- 人口減少・超高齢社会が大阪へ及ぼす影響・課題への対応

◆今後の施策の方向

○4つの基本目標

- ①地域経済機能の強化
- ②都市魅力・定住魅力の強化
- ③若い世代の就職・出産・子育ての希望を実現する環境整備
- ④人口減少・超高齢社会においても持続可能な地域づくり

(仮称)吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

Ⅰ 基本的な考え方 …(仮称)吹田市人口ビジョンを踏まえた考え方を示す

- 1 人口減少と地域経済縮小の克服
- 2 まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

Ⅱ 政策の企画・実行にあたっての基本方針

- 1 取組体制及びPDCAサイクルの整備
 - ・吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会における総合戦略等の検討及び推進
 - ・(仮称)吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議(学識経験者等の有識者及び市民)における意見聴取
- 2 政策5原則を踏まえた施策展開

Ⅲ 今後の施策の方向

- ・基本目標を設定し、基本目標の達成に向けてどのような施策を推進していくかを基本的方向として記載
- ・さらに、基本的方向に沿って、5年間(平成27年度～平成31年度)に実施すべき具体的な施策を定める
- ・具体的な施策について、客観的な重要業績評価指標(KPI)を設定

○4つの基本目標

基本
目標

① 地域経済の活性化(仮)

＜2020年 数値目標の例＞

- ・商店街等における空き店舗率 ●%

＜基本的方向の例＞

- ・中小企業振興による地域産業の競争力強化
- ・魅力ある商業地づくり
- ・創業支援による新たなビジネスや雇用の創出
- ・事業承継の円滑化
- ・産官学連携によるイノベーションの創出

基本
目標

② 都市魅力・定住魅力の強化(仮)

＜2020年 数値目標の例＞

- ・転入者数 ●人
- ・観光施設利用者数 ●人

＜基本的方向の例＞

- ・安心・安全に暮らせるまちづくり
- ・子育て世帯等が住みやすいまちづくり
- ・若年者等の地元就職促進
- ・観光施策の推進
- ・シティプロモーションによる魅力発信
- ・文化・芸術・スポーツ等の地域資源を活かした取組

基本
目標③ 就職・出産・子育ての希望を
かなえる(仮)

＜2020年 数値目標の例＞

- ・待機児童数 ●人
- ・安心して子育てができる環境にあると
思う子育て世帯の割合 ●%

＜基本的方向の例＞

- ・若者等の就労支援
- ・子ども・子育て支援の充実
- ・ワークライフバランスの実現による子育て環境の改善
- ・教育環境の充実

基本
目標④ 人口減少・超高齢社会においても
持続可能なまちづくり(仮)

＜2020年 数値目標の例＞

- ・健康寿命 ●歳

＜基本的方向の例＞

- ・健康・医療のまちづくりによる健康寿命の延伸
- ・公共施設の利活用・長寿命化
- ・地域力の強化(防災、コミュニティ等)